

函南中学校 3年 阿部 ころろさん

命を大切にしよう。この言葉を深く考えたことがありますか。私がこの言葉を考えるきっかけになったのは、弟が生まれた時です。弟は予定より2カ



月も早く生まれてしまい、集中治療室でたくさんのお薬や機械につながっていました。小学2年生の私にはとても衝撃的で、自分が元気に生まれ育っていることは当たり前ではないと気づきました。命が生まれるということは奇跡なのだと思えました。

最近のニュースを見るといじめによる自殺、虐待など命を大事にしない人が増えていきます。しかし、命を大切にすることはどうということなのでしょう。孔子も一生実行していくべきことは「恕」と答えています。思いやりという意味です。相手だけでなく、自分自身のことを思いやり、大切にこそ初めて「命を大切にしている」と言えると思います。

小さく生まれた弟はすくすくと成長し、元気に小学校に通っている姿を見ると生命の力強さや尊さを一層感じます。

私は将来子どもに思いやりを持ち、命の大切さを教えられるような教師になりたいです。命の大切さを忘れないで、生きていく奇跡に感謝しながらこれからも一杯生きていきたいです。

東中学校 3年 渡邊 杏美さん

最近、心から感動するものに出会いました。日常に目を凝らせば、素敵なものはそばにたくさんあります。春は眠っていた命



が目覚まします。空を突き破る勢いのたけのこには驚かされ、出会いと別れを彩る桜は不思議な暖かさや光を感じます。新緑の季節には大きな鏡が土の上に敷き詰められたようになります。心地よい水音をたて、穏やかな水面に空の青や街並みを映す田んぼほど美しい光景はありません。夏は人も動植物も最も活発になり、朝夕にはヒグラシが一日を夏らしくする魔法をかけ、空も生き生きとし、生命力に溢れています。秋は最も色彩豊かな時で、田んぼは金色に輝き、山は赤や黄色に燃えるばかりです。冬は凍てつく空気にちりばめられた星がきらきらし、宇宙の広さと自分の小ささと家で待つ家族の温かさを教えてくれます。

さらに、四季を通じ、我が東中から見る富士山はなんと美しいのでしょうか。

感動するものはたくさん身近にあります。幸せと生きがいがあるところにあり、それに気づく力は自分の中にあるのです。現代社会は心の目で物事を見ることを忘れがちです。日常の中の感動を心の目で見つけて下さい。そうすれば世界がどんなに美しく尊いかわかることができます。

講演 子どもにとって大人はどういう存在になれるのか 函南町スクールアドバイザーの活動を参考に

大会当日は、当町スクールアドバイザー(SA)の活躍をまとめた「地域・保護者&学校の連携で『荒れ』を克服」の著者、松井大助氏による講演も行われました。要約を掲載します。



▲講演をする松井大助氏

函南町のスクールアドバイザー(SA)は平成8年に発足し、地域の人が学校の先生と連携し、町での子ども

の声かけ、学校や家庭での面談、行事の見守りなどを通して地域の子どもの健全育成を推進しています。函南町のSAが発展を遂げたのは、学校と地域、行政が相互に連携したからです。学校は、ある子どもや学年団についてどんな課題があり、どうなっ

門家は地域の人が、子どもが抱える事情まで踏まえて関わられるよう、情報発信を行いました。

教育・児童福祉の「大人の在り方」として、子どもに「啓蒙」「コーチ」「支援」「促し」をする側であるべきと思いがちですが、それだけでなく生きる喜びを分かち合う「エンターティナー」・「一緒に挑戦する仲間」・子どもに何かしてもらおう「お客さん」・信じて幸せを願う「ファン」となった大人も、子どもの成長に一役買うことができます。変に取り替わらず、より多くの大人が自分の特性を踏まえ、多様な存在として子どもと関わっていくことが大切です。

青少年健全育成大会の目的

子どもを育てることは未来の地域の人材を育てることです。現在、家庭の在り方が多様化して行政などの支援が必要になっているケースもしばしば見受けられます。

子どもたちが健やかに育つには、地域、学校、家庭の連携が必要です。子どもたちが元気に成長できる環境をつくるために、地域みんなで協力していきましょう。そして、函南町から「未来をばばたく若い力」を育てましょう。



▲司会をする伊海華花さん(左)と中村笑菜さん(右)(ともに東中3年)

第69回社会を明るくする運動ポスター入賞作品

函南町長賞 函南中2年 山田 武瑠さん



町議会議長賞 東中3年 渡邊 杏美さん

教育長賞 函南小6年 内山 詩萌さん



社会福祉協議会長賞 函南中3年 阿部 ころろさん

校長会長賞 東小6年 白井 美羽さん



三島地区保護司会長賞 桑村小6年 坂元 翔飛さん

三島地区更生保護女性会長賞 西小6年 白井 萌優さん

